「話し合い」の類型別に見られる協働のためのストラテジー
ー「意見交換型」「課題解決型」「課題達成型」を中心にー

寅丸真澄(早稲田大学)　大場美和子(昭和女子大学)　中井陽子(東京外国語大学)

1. 研究の背景と目的

近年，教育機関や企業等の多様な場において，話し合いの重要性が認識され，プロジェクトワークやピア活動の中で話し合い活動が行われるとともに，その研究も活発化している．日本語学・日本語教育学分野においても，意見表明の際の表現形式（李，2001），ピア活動における話し合いの発話機能（岩田・小笠，2007），司会者役割（胡・石黒，2018）等，多様な観点からの研究成果が報告されている．その一方で，よりよい話し合いを実現するためにはどのようなストラテジーを用いればよいのかという点については，未だ研究途上であると言える．その理由としては，研究領域が広いゆえ話し合いの定義が様々であり（内田，2003），研究者や実践者が研究対象とする話し合いの形式や，話し合いの場，テーマ，参加者が多様であることから，話し合いのための汎用性の高いストラテジーを抽出することが困難であることが挙げられる．そのため，寅丸他（2023）では，まず話し合いの類型を区分することを目的として，先行研究の文献調査を行い，話し合いの類型を【意見交換型】【課題解決型】【課題達成型】【情報共有型】【ピア学習型】の５つに区分した．

そこで，本研究では，寅丸他（2023）の５つの分類のうち，授業活動でよく用いられる【意見交換型】【課題解決型】【課題達成型】の３つの分類を取り上げ，話し合いにおける協働がどのように実現されているのかという観点から協働のためのストラテジーの一端を明らかにし，授業等で話し合いを行う際の留意点を検討することを目的とする．特に協働性に着目したのは，話し合いが複数の参加者による協働によってその目的を達成し得る相互行為だからである．話し合い教育では，学習者と教員がこれら５つの類型別特徴に応じて，協働のためのストラテジーを意識化して話し合い活動を行い，有意義な成果を創造することが期待されると考える．本研究における「話し合い」とは，「複数の参加者が集まり，特定の話題について意見交換や意思決定を行うコミュニケーション（相互行為）」（村田他，2018:6-7）である．また，協働のためのストラテジーとは，参加者が話し合いのフレームに配慮しつつ，円滑かつ協働的に話し合いを進め，有意義な成果を創造しようとして用いる相互行為であると考える．

2. 分析方法

本研究では，寅丸他（2023）を参考に，表１のように話し合いの５つの類型の定義，及び合意形成の有無を整理した．

表１　話し合いの類型

話し合いの型	定義	合意
情報共有型	情報共有を主たる目的として合意形成を必須としない型（例：報告会等）	不要
意見交換型	意見交換を主たる目的として合意形成を必須としない型（例：読書感想会等）	不要
課題解決型	課題の解決を主たる目的として参加者間で検討して合意形成を図る型（例：差別問題の解決等）	要
課題達成型	課題の達成を主たる目的として参加者間で検討して合意形成を図った上で， 何らかの具体的成果を創造する型（例：研究調査の計画立案等）	要
ピア学習型	ピア学習において学びを促進することを主たる目的として行われる型 （例：読解や作文授業におけるピア活動等）	要

その上で，話し合いのデータを次の通り収集した．大学生のＸ（4年生），Ｙ（2年生），Ｚ（3年生）によるChatGPT（Chat Generative Pre-trained Transformer）に関する話し合い（約60分）を録画した．この話し合いは，寅丸他（2023）が指摘する５類型のうち３つの類型を段階的に進めることにより，最後の課題を達成できるように設計されていた．３つの類型とは，合意形成を必須とせずに意見交換を行う【意見交換型】，何らかの課題解決を目的として合意形成を図る【課題解決型】，課題について創造的に検討した上で合意形成を図り，具体的な結論を導き出す【課題達成型】である．具体的には，まず参加者はChatGPTの利点や欠点について意見交換を行い，問題点・留意点を指摘した（【意見交換型】）．次

に，それらの問題点・留意点に対する解決策を検討し（【課題解決型】），ChatGPT を学内で利用する際のルールを作成した（【課題達成型】）．最後に，話し合いの内容を全体で確認し合意形成を図った（【まとめ】）．各型の話し合いは 15～20 分，まとめは 3 分程度である．調査者は収録データを文字化し，討論の談話の構造分析を行った寅丸（2006）の発話機能分類を参考に，発話機能を付した．また，話し合いの展開や参加者役割，意見のやりとりの仕方等の特徴をもとに協働のストラテジーを分析した．

3. 分析結果

表 2 は，【意見交換型】【課題解決型】【課題達成型】【まとめ】の段階における発話機能の出現傾向である．発話例における発話番号の数字は，類型番号と発話順を表す（例：1-5）．類型番号は，【意見交換型】が 1，【課題解決型】が 2，【課題達成型】が 3，【まとめ】が 4 である．

表 2　各段階別発話機能の出現傾向

発話機能		意見交換型		課題解決型		課題達成型		まとめ		合計	
		数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
情報	1.情報要求	0	0.0%	3	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.1%
	2.情報提供	12	4.3%	22	7.9%	3	1.1%	0	0.0%	37	13.2%
意見	3.意見要求	5	1.8%	2	0.7%	7	2.5%	0	0.0%	14	5.0%
	4.意見表明	22	7.9%	33	11.8%	38	13.6%	0	0.0%	93	33.2%
明確化	5.明確化要求	0	0.0%	2	0.7%	4	1.4%	0	0.0%	6	2.1%
	6.明確化	1	0.4%	2	0.7%	6	2.1%	0	0.0%	9	3.2%
確認	7.確認要求	1	0.4%	1	0.4%	6	2.1%	2	0.7%	10	3.6%
	8.確認提示	1	0.4%	1	0.4%	4	1.4%	3	1.1%	9	3.2%
同意	9.同意要求	0	0.0%	5	1.8%	1	0.4%	0	0.0%	6	2.1%
	10.同意表明	3	1.1%	20	7.1%	16	5.7%	0	0.0%	39	13.9%
意思	11.意思要求	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	12.意思表明	0	0.0%	1	0.4%	2	0.7%	0	0.0%	3	1.1%
13.話題提示		1	0.4%	1	0.4%	3	1.1%	1	0.4%	6	2.1%
14.要点整理		0	0.0%	0	0.0%	3	1.1%	9	3.2%	12	4.3%
15.進行管理		8	2.9%	3	1.1%	4	1.4%	2	0.7%	17	6.1%
16.発話促進		0	0.0%	2	0.7%	6	2.1%	0	0.0%	8	2.9%
17.謝意挨拶		5	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.1%	8	2.9%
合計		59	21.1%	98	35.0%	103	36.8%	20	7.1%	280	100.0%

全体の発話機能の出現数では，【意見交換型】（21.1%）より【課題解決型】（35.0%）と【課題達成型】（36.8%）が高いこと，及び，出現数が最も多い発話機能の〈4.意見表明〉も【意見交換型】（7.9%）より【課題解決型】（11.8%）と【課題達成型】（13.6%）で高いことから，【意見交換型】より【課題解決型】と【課題達成型】において活発なやりとりが行われていたことが推測できる．また，他者の意見に対する〈5.明確化要求〉〈7.確認要求〉が【意見交換型】（0.0%，0.4%），【課題解決型】（0.7%，0.4%），【課題達成型】（1.4%，2.1%）の順で高くなることから，合意形成を要しない【意見交換型】より合意形成を要する【課題解決型】と【課題達成型】で双方向的なやりとりが展開していたと言える．一方，〈10.同意表明〉が【課題解決型】（7.1%）より【課題達成型】（5.7%）のほうが低いことから，抽象的なやりとりになりやすい【課題解決型】と比較して，具体的な行動を決める【課題達成型】では容易に〈10.同意表明〉を行わず，〈5.明確化要求〉〈7.確認要求〉によって意見のより詳細な検討を行っていた可能性が指摘できる．

以上のような話し合いの類型に応じたやりとりの違いは，参加者のストラテジーにも影響していたと考えられる．本研究において参加者は，【意見交換型】【課題解決型】【課題達成型】の 3 類型を段階的に進める過程で，4 種の協働のためのストラテジーを使用していた．具体的には，（1）役割配慮のストラテジー，（2）対人配慮のストラテジー，（3）内容配慮のストラテジー，（4）進行配慮のストラテジーである．これらの協働のストラテジーは，具体的には文や表現，談話展開等の多様な形で表現され，全ての類型で使用され得る．本研究では，特に【意見交換型】で（1），【課題解決型】で（1）（2）（3），【課題達成型】で（1）（2）（3）（4）の使用が観察された．上述の通り，【意見交換型】よりやりとりが活発に行われた【課題解決型】と【課題達成型】において（2）対人配慮のストラテジーと（3）内容配慮のストラテジーが必要とされたことが推測できる．また，【課題達成型】では，時間内に具体的な内容について合意形成を図る必要から，〈13.話題提示〉〈14.要点整理〉〈15.進行管理〉〈16.発話促進〉といった発話機能で表される（4）進行配慮のストラテジーが使用されていたと考えられる．以下にストラテジーの具体例を示す．発話例の下線部がストラテジーの該当箇所である．

(1) 役割配慮のストラテジー

役割配慮のストラテジーとは，参加者が話し合いの中で一定の役割を担い遂行するための配慮を行うストラテジーである．【意見交換型】【課題解決型】【課題達成型】【まとめ】のいずれにおいても観察される．本研究では，役割分担の指示は出さなかったが，結果的に，学生Xが司会進行役，学生Yが計時係を担当した．司会進行役は主に〈13.話題提示〉〈14要点整理〉〈15.進行管理〉のほか，〈13.話題提示〉時に行われる最初の〈3.意見要求〉を担っていた．計時係は司会進行役とともに〈15.進行管理〉を担っており，他の参加者がこれらの役割を担うことは稀であった．役割分担は話し合いのフレームの一部を成すと考えられるが，司会進行役と計時係の役割とそれ以外の参加者の役割の違いは，全員に認識され保持されていた．発話例 (1) は，【意見交換型】の話し合いの冒頭で話した学生X（司会進行役）の〈13.話題提示〉と〈3.意見要求〉の発話である．発話例 (2) は，学生Xが【まとめ】の冒頭でそれまでの話し合いの〈14.要点整理〉を行っている発話である．

発話例 (1)【意見交換型】 1-5　学生X：えっと，今日はこの，なんか社会であの，議論されてる，ChatGPTについての意見交換なんですけれども．その，まずYさんから，あの，この利点とか欠点とか，なんか思うところ，何か意見ありますか．
発話例 (2)【まとめ】 4-1　学生X：最後，じゃあまとめをしていただきますって．今の，じゃああの，話をまとめますと，えっと，まずChatGPTはあの，学校内の管理下に置くということで……（略）

(2) 対人配慮のストラテジー

対人配慮のストラテジーとは，他者の意見に賛同して補足したり，自身の批判や反対意見を和らげたりするための配慮を行うストラテジーである．これは相手の意見に賛成したり，相手の意見とは異なる意見を述べたりする場合に使用されるため，合意形成を必要とする【課題解決型】または【課題達成型】で多く観察された．発話例 (3) は，学生Yが学生Zの意見に強い同意を表明している発話である．学生Yは同意すると同時に，自身の例によって学生Zの意見を補足，精緻化している．一方，発話例 (4) は，学生Zがそれまでの議論の方向性とは異なる視点から意見を述べた発話である．それまでの学生Xと学生Yの議論では，ChatGPTで出された回答をそのまま使用することに対する規制が問題視されていた．そこで学生Zは，〈10.同意表明〉によって規制自体の必要性と，それまでの議論と自身の意見との類似性を認めた上で持論を展開している．また，学生Zは，学生X，Yに対する配慮から，前置き表現を使用して持論の根拠を説明している．

発話例 (3)【課題解決型】 2-26　学生Y：確かにすごい納得しました．なんか，うーん，言ってしまえば，もはやChatGPTができることは人間ができる必要がないっていうこともあって．例えばChatGPTが要点できたり翻訳できたりするなら，正直，人間の力でできなくても困らない，これから社会で困らないかもしれないっていうのがあるので…（略）
発話例 (4)【課題達成型】 3-9　学生Z：そうですね．自分はまあ，方向性としては似てるんですけど，その，ChatGPTから丸パクりっていうよりかは，なんかその，既に出たあの，まあ，同級生はもちろんですし，その，いろんな先行研究とかを自分のものみたいにして書くっていうのを禁止するっていう，あの，ベクトルであの，規制が必要かなっていうふうに思ってます．え，何でそれをわざわざ言うかって，例えば……（略）

(3) 内容配慮のストラテジー

内容配慮のストラテジーとは，話し合いの目的やテーマを保持しつつ有意義な意見を述べるためのストラテジーである．話し合いには目的と全体テーマがあり，そのテーマに関わる複数の話題が取り上げられる．場合によっては話題がずれたり，同じ話題について長時間話し合ったりすることがある．そのような事態を回避するため，参加者はメタ認知を働かせて話し合いのフレームに沿いながら，より有益な方向へと話し合いを進ませようと配慮を行う．発話例 (5) は，学生Zが話し合いの内容の方向性を学生視点から教員視点に移すことを提案した発話である．ここでは，これまでの文脈と自身が提供しようとしている文脈の関連性について3-38で前置きするとともに，突然の話題転換への違和感を軽減するため，3-40において (2) 対人配慮のストラテジーとしての前置きも行っている．

発話例 (5)【課題達成型】 3-38　学生Z：今，多分，学生をどうするかっていう方向で話が進んでいると思うんで，あの，教員側の視点が． 3-39　学生X：うーん，なるほど． 3-40　学生Z：うん，も，要るかなと思いました．まあ，今すぐ思い付いたものなんで，あんまりいいものじゃないかもしれないんですけど，えっと，思ったのが……（略）

(4) 進行配慮のストラテジー

進行配慮のストラテジーとは，時間内に話し合いの目的を達成するため進行管理に配慮するストラテジーである．本研究の話し合いの到達点は，時間内に ChatGPT を学内で利用する際のルールを作成することであった．そのため，【課題達成型】の話し合いでは，〈13.話題提示〉〈14.要点整理〉〈15.進行管理〉〈16.発話促進〉といった発話機能を用いて進行管理を積極的に行っていたと言える．発話例（6）3-29 では司会進行役の学生 X が〈3.意見要求〉を行ってルール案の作成を促している発話である．学生 X は，意見が一通り出たことを確認すると，3-31 でまとめに入ろうとしている．また，発話例（7）は，【まとめ】に入る前に 3-50〈3.意見要求〉で最後の意見を求める学生 X に対して，学生 Y が 3-53〈4.意見表明〉，〈7.確認要求〉で話し合いのまとめと終結を促している場面である．司会進行役である学生 X 以外の参加者も進行配慮を行い，円滑な進行を行うことに協力していることがわかる．

発話例（6）【課題達成型】
3-29　学生 X：ほかに何か付け足しとかあったりします？ほか．
3-30　学生 Y：ほかのルール，うーん．ほかのルール．
3-31　学生 X：ほかのルール，難しいですよね．結構ほとんど，なんかいい感じにできたかなと思うんですけど．
発話例（7）【課題達成型】
3-50　学生 X：まあ，今後の，今後次第かなってところは若干ありますね．ほか，何か意見あります？（略）
3-53　学生 Y：言い切ったかな．（略）まとめをします？

4. 結論

以上，本研究では，話し合い教育における効果的な話し合いの方法の意識化を目的として，話し合いの類型別（【意見交換型】【課題解決型】【課題達成型】）に見られる協働のためのストラテジーについて分析した．分析の結果，次の 3 点が明らかになった．

(1) 参加者は【意見交換型】【課題解決型】【課題達成型】の話し合いを通して合意形成に至る過程で，役割配慮，対人配慮，内容配慮，進行配慮の 4 つの協働のためのストラテジーを使用していた．

(2) 合意形成を要しない【意見交換型】より，合意形成を要する【課題解決型】と【課題達成型】で双方向的なやりとりが展開していた．

(3) 抽象的なやりとりになりやすい【課題解決型】と比較して，具体的な行動を決める【課題達成型】ではより詳細な意見の検討がなされていた．

これらの点から，授業等で話し合いを行う場合は，上記の類型を踏まえた話し合いの設定やストラテジーの意識化が重要であると言える．特に，複数の参加者による相互行為が行われる話し合いでは，話し合いのフレームに留意しつつ円滑かつ協働的に進め，有意義な成果を創造しようとする協働のためのストラテジーを用いる必要がある．そのため，教員が授業で話し合いを取り入れたり，学習者が話し合いに参加して成果を挙げたりするには，話し合いの類型や協働のためのストラテジーに対する理解が重要であると考える．

謝辞　本稿は，JSPS 科研費 23K00604「会話データによるインターアクションの問題分析と運用能力育成のための教材開発」（研究代表者：中井陽子）の助成を受けている．

参考文献

李善雅（2001）．議論の場における言語行動―日本語母語話者と韓国人学習者の相違―．日本語教育，111，36-45.

岩田夏穂・小笠恵美子（2007）．発話機能から見た留学生と日本人学生のピア・レスポンスの可能性．日本語教育，133，57-66.

内田剛（2022）．国語科における「話し合い」学習の理論と実践．ひつじ書房.

胡方方・石黒圭（2018）．司会者の役割　司会役はグループ・ディスカッションにどこまで貢献できるのか．石黒圭（編著）どうすれば協働学習がうまくいくか　失敗から学ぶピア・リーディング授業の科学．ココ出版，pp.127-150.

寅丸真澄（2006）．日本語の討論の談話における「意見表明」の構造．早稲田大学日本語教育研究，9，23-35.

寅丸真澄・中井陽子・大場美和子（2023）．「話し合い」に関する文献調査の報告―分野横断的な知見共有をめざして―．社会言語科学会第 47 回発表論文集，191-194.

村田和代・井関崇博（2018）．話し合い学の領域と研究課題．村田和代（編）話し合い研究の多様性を考える，pp.1-19，ひつじ書房.